

湘南学園だより

発行：湘南学園だより編集部



contents



湘南学園生としての誇り
心おどる出会いの季節への旅立ち
諸分野の改革・改善をすすめた六年間
高校生との交流を通して
「湘南学園小学校2016」にむけて
戦争体験を聞く ～平和への願いを語り継ぐために～

ユネスコスクールとE S Dのカリキュラム
大学入試・高大接続をめぐる動向と本校の学習進学指導の強化
湘南学園中学高等学校における食育～カフェテリアとの連携
学校法人からのご報告

理事長
学園長
学園長
年中組学年主任
小学校校長
小学校六年生担当

中高校長
学習進学指導主任
中高家庭科

河野重男 02
仲本正夫 02
仲本正夫 03
中川貴義 08
榎本勝己 10
南田美加 11
笠井多香子
鈴木智洋
山田明彦 12
木下貴志 13
坂元久美子 14
15



湘南学園生としての誇り

理事長 河野重男

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、幼稚園の3年間、小学校の6年間、中学校高等学校の6年間を、鶴沼の恵まれた環境の中で過ごし、それぞれ次のスタートラインへ立っています。

これからの皆さんの人生が、希望に満ちた素晴らしいものとなりますように、願っております。

特に高校を卒業した皆さんは、長い人では15年間通った学園を離れ、今までは比較にならないほど広く、多様性のある環境に転じることになります。

これからの社会では、様々な喜びや困難に直面する事と思いますが、常に湘南学園生としての誇りを胸に、目標に挑戦し続けていくて欲しいと思います。

愛はすべてに打ち勝つ

私が青春時代を過ごしたキャンパスのモニュメントには、次の言葉が刻まれています。

AMOR OMNIA VINCIT

これは「幸福論」の著者として知られる哲学者カール・ヒルティの言葉で、日本語では「愛はすべてに打ち勝つ」と訳されています。

ここで言う「愛」とは「恋愛感情ではなく、人にしてもらいたい」とは、人にもそのようにしてあげ

る、そういう愛」であり、要約するならば、様々な人々との相互理解とリスペクトであると思います。

皆さんも、これからの新しい環境の中で、常に「愛」と「感謝」の心を持って人と接することにより、素晴らしい出会いに恵まれる

ものと、確信しています。

心のふるさと

卒業生の保護者の皆様、在学中のご協力、まことにありがとうございます。

湘南学園は、1933年の創立以来、伝統を堅持しつつ、時流に沿った改革を実行してまいりました。これからも「子供たちの成長

と未来のために」たゆまぬ発展を目指すとともに、卒業生のみならず保護者の方々にとっても、時折立ち寄ってみたいくなる、そんな学園を目指してまいります。

最後になりましたが、教職員・PTA・同窓会・後援会・湘南食育ラボ他の運営パートナーをはじめとする「チーム湘南学園」の皆様、この1年間、たいへんお疲れ様でした。

4月にはまた新しい学年が始まります。引き続きご尽力の程、よろしくお願い申し上げます。

心おどる出会いの季節への旅立ち

ご卒業おめでとうございます。



幼稚園
小学校
中学校
高等学校

卒業される皆さん、

ご卒業おめでとうございます。

三月は旅立ちの季節、そして、四月は新しい世界で待って

いる心おどる出会いの季節です。皆さんが、これからも本当のことを学び、探究するということの面白さや楽しさを胸に刻んで、激動の時代に希望をつかんで生きていくために、生涯を通じて学び続けていってほしいと願っております。

保護者の皆様は、お子様の目

また、保護者の皆様には、今まで、湘南学園の発展のために、PTA活動や理事会・評議員会で献身的にご尽力くださいましたことに心からお礼申し上げます。

学園長 仲本正夫

を見張るような成長に感無量のことと思います。お子様のご卒業を心からお喜び申し上げます。

また、保護者の皆様には、今まで、湘南学園の発展のために、PTA活動や理事会・評議員会で献身的にご尽力くださいましたことに心からお礼申し上げます。

以下、皆さんとともに歩んだ湘南学園の六年間を振り返ってみたいと思います。

私も湘南学園を卒業

皆さんとの出会いと

ステキな六年間は

私の宝物です

私は、六年前に湘南学園に学園長として就任しましたので、小学校や高校の卒業生と一緒に入学しており、今年の卒業式は忘れられないものとなります。

この間、私は本当に沢山の人々と出会うことができました。

教職員のみなさんはじめ、PTA・同窓会・後援会のみなさん、そして湘南食育ラボのみなさん、

湘南学園をよくしたい、そして、子どもたちのためにと献身的にがんばる人々たちとの新しい出会いといただいた沢山の笑顔は、私の宝物となりました。

とりわけ皆さんと一緒に全力をあげて取り組んだ八〇周年記念事業は思いで深いものになりました。

長い間、本当にお世話になりました。

以下、皆さんとともに歩んだ湘南学園の六年間を振り返ってみたいと思います。

諸分野の改革・改善をすすめた六年間

学園長 仲本正夫

二〇一三年の創立八〇周年をはさんで、二〇一〇年からの六年間、湘南学園は、総合学園としての改革・活性化、教育、財政、組織、労働環境等の様々な分野の改革をすすめてきました。

一 学園全体の改革・活性化

① 学園を活性化させた

創立八〇周年事業

とくに創立八〇周年事業・行事は、湘南学園全体の活性化の起爆剤となり、その後の発展の土台を築きました。

◎ チーム湘南学園の誕生

湘南学園は、保護者と教職員で経営するユニークな私学として八〇年以上の歴史を刻み、多くの卒業生にも母校として愛される学園になってきました。

その大きな節目のひとつが、創立八〇周年であり、計画した事業や行事でした。よくこれだ



けのことをなしとげたと思います。それはまさに3km級のアルプスの頂上にたつたとき、振

り返るよくここまで登ってきたなあと感じるのと似ています。

このプロセス全体が、じつはPT共同の学園にふさわしい大きな学園づくりの営みだったと思います。

それは、理事会とPTAと同窓会と後援会の四者で構成する八〇周年実行委員会（三年間で五〇回）という組織を中核にして力強くすすめられました。ここから、「チーム湘南学園」という言葉も誕生しました。

この八〇周年記念事業の成果をまとめると次の七点で、これらは創立九十周年に向けての大きな飛躍台になるでしょう。

◎ 八〇周年の成果と教訓

第一に、PT共同の湘南学園を質的にも量的にも支える「チーム湘南学園」が誕生したことです。

第二に、ホームカミングデー

等を通して卒業生に発展した母校を見ていただき、湘南学園を支える卒業生が広がったこと。

第三に、記念式典やふたつの音楽祭を中心に、幼小中高の園児・児童・生徒たちも積極的に参加し、楽しめる行事になったこと。

第四に、「松ぼっくり募金」は、千七百名から総額八三五万円（保護者九五二万円、卒業生四七五八万円、教職員三二六万円、後援会一九二万円等）が寄せられ記念事業を推進する重要な資金となったこと。

第五に、カフェテリアと同窓会室をもつ八〇周年記念館が建設されたこと。

第六に、カフェテリアを運営するNPO法人湘南食育ラボの誕生と幼小中高の食育という湘南学園の新しい魅力を作り出したこと。

第七に、高校卒業生の同窓会への加入方式を確立したこと。（詳しくは「湘南学園だより」(NO120 2014. 3.8発行)

② 全学的な取組みの前進

○ 全学運営協議会の活性化

湘南学園全体の改革・活性化は、全学運営協議会を中心にしてすすめられました。

毎週定例化し、年間三〇回以上、六年間で合計一九九回開催してきました。

幼・小・中高が日常的に交流しつつ、八〇周年事業や記念行事の推進、新年初顔合わせ、学園だよりの発行、全学一斉防災訓練、全学教研等をスタートさせ、また、勤務時間のあり方の



研究・検討等を行いました。全学教研は第三回から実行委員会方式に発展させました。

○全学的な委員会の活躍

・全学教研実行委員会(第三回より)幼・小・中高からの委員で構成、全学教研を主催

・カフェテリア委員会

・カフェテリア利用の普及と食育の推進

・教育振興基金運営委員会

・グローバル教育の推進
海外視察派遣



二 教育改革の推進

①幼稚園の教育改革

幼稚園では、ネイティブの先生による楽しい異文化交流をスタートさせたのはじめ、一五年度からは長年の懸案であった充実した保育をすすめるための保育五日制とそれに伴う先生たちの隔週土曜休日を実現し、保護者のニーズにこたえて預かり保育を開始しました。一六年度からは、希望者へのカフェテリアお弁当もスタートさせます。

①小学校の教育改革

小学校が二〇一〇年「湘南学園小学校改革基本大綱」を策定し、教育改革を推進してきたことは画期的なことです。

この「大綱」では、公立のすすめる反復練習型の「確かな学力」に対して、本質がわかることを大切に「豊かな学力」の探求やその習熟をはかること、通信簿にあたる「のびる芽」の改訂、二〇一二年に全国の教師に開かれた公開授業を行うこと、そして学校隔週五日制の実現をかかげて、着実にその

実現をはかってきたことは画期的なことと言えます。また、一流と本物にふれるアフタースクールの開始は、大きな魅力となっています。

②中高の教育改革

中高では、二〇年以上大切にしてきた総合学習の実践をふまえて、ユネスコスクールの認定、ESD(持続可能な発展のための教育)という人類的課題をみずえた二一世紀型教育の探求、様々な海外留学や海外セミナー、国内でのイングリッシュキャンプを含むグローバル教育の進展がはかられ、SGHにトライシ、アソシエート校として認定されました。これらの取組みは、大学入試改革の動向にもそうものであり、重要な学校改革がすすめられていると考えられます。

③食育の開始

学園の新しい魅力

カフェテリアの誕生とNPO法人湘南食育ラボ(以下「ラ

ボ」)による運営によって、食育という新しい魅力が生まれました。

カフェテリアは湘南学園の募集対策上からも大きな効果を発

揮しつつあります。

一五年度は、中一クラスランチや家庭科ランチ、小学校学年ランチ等が続々スタートし、幼稚園の利用もすすみ、食育が全学的に大きく広がった年になりました。

カフェテリア委員会では、クラスランチを実施する中で、「酢豚を初めて食べた」と話す生徒やサンマの塩焼きの食べ方と比べながら、自分の食べ方と比べながら、自然のうちに食べ方について意識するようになっていく風景等、食への関心を高めていく上で、大変重要な意義をもっていることが明らかになってきました。



三 財政改革

財政説明会も開催して

①財政説明会の開催

理事会は、全国最下位という神奈川県私学助成の現状をふまえ、当然その増額を強く求めつつ、現実には、毎年度の収支状況と中長期的な見通しを明らかにし、一〇年後、二〇年後も

ゆきとどいた教育が維持できるのか、資金がどうなっていくの

か、数十年後に必要とされる校舍建設費等はちゃんと準備されていくのか等を検討し、学園財政を計画的に健全化していく必要性を明らかにし、予算編成方針も行き、財政改革に着手してきました。

この財政改革にあたっては、PT共同経営の一方の担い手である教職員には、学園財政の現

在と過去・未来について理解していただく必要があり、毎年、財政説明会を行ってきております。

②各種寄付制度の創設

この財政改革の一環として、学費と補助金だけでは学園の発展的な運営が難しいことから、収入を増やすために、理事会は、寄付金を私学における大切な財源と位置付け、これを積極的に募ることにしました。

そこで、新入生の入学時寄付の創設をはじめ、在校生保護者からの寄付、さらには卒業生（同窓会）も対象に含めた遺贈制度も創設し、学園財政への積極的なご協力をよびかけることにしました。



四勤務時間の改革

週四〇時間労働の法令遵守と
教育活動の充実をはかるために

①二〇一五年度改革

幼小隔週土曜日導入 勤務時間改定

二〇一五年度、湘南学園は勤務時間の第一段階の改革を行いました。湘南学園では、長年、勤務時間は一応あるけれども、勤務実態はこれと大きく乖離しており、有名無実化していました。

しかし、それが通用しなくなる時代になってきました。

民間企業における過労死問題に端を発して、労基署が、学校にも調査に入り、労働時間の管理や時間外手当の支給などをきびしく行政指導するようになってきたのです。

週四〇時間という労働時間を学校においてもまもらなければならなくなりました。

このため、幼稚園と小学校については、一五年度より隔週で土曜日とする改善をはかり、教職員会と三六協定を結び、時間外手当の支給等の改善をはか

り、勤務時間の改革にとりかかりました。しかし、週四〇時間という制約のもとでは、必要な教育活動を勤務時間内に終わらせることが大変難しいことが明らかになり、次に述べる一年単位の変形勤務時間制の導入へと改革をすすめることになりました。

②二〇一六年度改革

中高研修日の導入 変形労働時間制導入

六日制の中高においては部活動もあり、先生たちは一年中休みなく働き続け、過労死も心配されるような実態がありました。

このため、理事会は、先生たちに週一日の研修日を導入し、疲労や活力を回復することと、繁閑の差が極端に大きい学校の勤務実態をふまえて、一年間を平均して四〇時間以内ならばよいとする一年単位の変形労働時間制の導入を教職員会や先生方に提案し、変形労働時間制に関

する説明会も実施し、勤務時間の改革をはかる交渉をすすめてきました。その結果、二〇一六年二月、労使間で基本的な合意に達し、二〇一六年度から新しい勤務体制をスタートさせることになりました。

五サーバー室の改革

長年の懸案だった一人の担当者まかせにしてしまい、属人化していたサーバー室を危機管理上からも重大と考え、日立システムズに管理運営を委託し、次期情報システム構築をはかり、情報センターとして改組しました。この間、ホームページのリニューアルも行い、現在の、教務システムの再構築にとりかかっていきます。

六地域との連携強化

この六年間の大きな特徴に地域とのつながりが深くなり、非常に良好な関係になってきたことがあげられます。

小学校建設では近隣の方たちとほとんどトラブルがなく、工

事をすすめることができました。

二〇一一年、東日本大震災の折には、津波の危機が迫る中で地域の人たちが湘南学園に沢山避難し、学園は、総力をあげて地域の人たちを迎え入れ、百人以上の人たちが三階のじゅうたんの敷いてある会議室で一夜を過ごされました。

これを見たPTAは、会長を先頭に支援に立ち上がり、翌朝、おにぎりや味噌汁の提供を行いました。

地域とのつながりと信頼関係は、このことを通して非常に強まりました。

創立八〇周年にあたっては、地域の六自治会から「階の木」の贈呈を受けました。また、毎年の防災の日には会場提供を行いました。

地域との良好な関係は、学園発展の大切な基礎であり、今後も様々な形でつながりを深めていきたいと考えます。

以上、振り返ると、湘南学園はこの六年間、大きな改革と改善をはかって活性化してきたことがわかります。

湘南学園がますます発展することを期待したいと思います。

湘南学園 6 年間の改革・改善の歩み (2)

(2) 小学校の改革

- 1) 「湘南学園小学校改革基本大綱」を教員会議で策定(2010)。全教員による校内授業検討会(年間25回前後)確立
- 2) 募集危機(2010～2013)の打開、募集定員の確保
- 3) 小学校隔週5日制と先生の隔週土休実現。(2015)
- 4) 公開研究会開催(2015年11月第2回)や「のびる芽」の改訂
- 5) 小学校1年からのネイティブ教師による国際理解教育(2015～週1時間)、葉山インターナショナルスクールとのコラボ(2015)
- 6) 国際的環境団体 FEE よりエコスクールとして認定され、グリーンフラッグを授与(2013)
- 7) アフタースクール開始(一流や本物にふれる多彩なプログラムと預かり)(2014)
- 8) 食育 カフェテリア弁当(希望者)やスクールランチ開始(2015)

(3) 中高の改革

- 1) 募集危機の打開・募集定員の確保。
- 2) ユネスコスクール認定、E S D (持続可能な開発のための教育)の開始
- 3) スーパーグローバルハイスクール(SSS)に応募、アソシエート校に認定(2015)
- 4) グローバル教育の進展
 - 海外セミナー(希望者) カナダ、オーストラリアに加えてイングランドセミナーやポーランド・リトアニアヒストリーツアー、台湾セミナーも開始
 - 国内イングリッシュキャンプ開始(2015)
 - ノックス校 ジャパンツアーや中長期留学制度開始
 - ロータリークラブの青少年交換留学開始(2014～)
- 5) カフェテリア営業開始(2013年11月～)
- 6) 食育 中1クラスランチ年間10回、家庭科ランチ等開始(2015)
- 7) サポーターバンクに登録した卒業生の様々なサポート開始

3. 学園財政の健全化はかる改革

- 1) 各種寄付制度の創設。①教育充実寄付金 ②教育振興寄付金 ③遺贈制度
- 2) 学園財政健全化への取組み。中長期シュミレーションによる財政説明会
- 3) 学費の改訂(幼稚園施設費値下げ、小学校学費値上げ)
- 4) 神奈川県に対する私学助成増額を求める私学振興大会参加
- 5) 特色ある教育に対する特別補助の積極的な申請

4. 教職員の勤務時間等の改革—1年単位の変形労働時間制へ—

- 1) 幼稚園・小学校教員 隔週土曜日休日に(2015～)
- 2) 勤務時間の見直しと36協定の締結(2015～)、衛生委員会の設置
- 3) 中高週1日の研修日と1年単位の変形労働時間制の導入(2016～)

5. サーバー室の改革—次期情報システムの構築—

- 1) 次期情報システムの構築(日立システムズに業務委託)
- 2) 幼小中高のホームページのリニューアル
- 3) 全教職員へのパソコン貸与と幼小中高のICT設備整備。
- 4) 生徒情報管理システム・教務システム再構築(指導要録等や「のびる芽」)
- 5) 中高ICT設備整備(無線LAN・タブレット端末試行等)

6. 地域との連携強化

- 1) 3・11(2011年)に地域の避難所に。3階を開放、1夜過ごす。PTAの炊き出し
- 2) 年1回の地域防災の集いの会場提供、協賛。6自治会との交流

湘南学園 6年間の改革・改善の歩み (1)

1. 総合学園全体としての改革・活性化 (2010～2015)

(1) 学園を活性化させた創立 80 周年事業の大成功 (2013)

- 1) 小学校新校舎の完成 (2012)、第 57 回神奈川建築コンクール一般建築部門最優秀賞受賞 (2013)
- 2) 記念式典・新築カフェテリアでの祝賀会とホームカミングデー (2013.11.13)
- 3) 80 周年記念音楽祭 (尾高惇忠さんによるクラシックの日&平尾昌晃さんによるポピュラーの日)
- 4) 80 周年記念誌発行
- 5) 松ぼっくり募金 (総額 8450 万円)
 - ① 80 周年記念館完成 同窓会室やカフェテリア (200 席)
 - ② 教育振興基金創設 (1750 万円)
- 6) 3 年半 50 回の 80 周年実行委員会開催等とチーム湘南学園の誕生。
 - ① 学園・P T A・同窓会・後援会が参加 ② 高校卒業生の同窓会への加入方式の確立
- 7) カフェテリアの開設と NPO 湘南食育ラボの誕生・食育開始

(2) 全学的な取組みの前進

- 1) 全学運営協議会の毎週開催、各パートの連携強める。6 年間で合計 199 回
- 2) 手づくりの全学教研、2015 年第 5 回。毎年開催 (2011～2015) 2013 年より実行委員会方式に。
- 3) 新年初顔合わせ 毎年開催 (2010～2015)
- 4) 全学一斉実施の防災訓練開始 (2015)
- 5) 食育の本格実施へ (2015)
 - ① 中高 中 1 クラスランチ、家庭科ランチ
 - ② 小学校 お弁当 (希望者) や学年ごとのスクールランチ
 - ③ 幼稚園 年少・年中・年長の利用
 - ④ P T A 『千年の一滴』上映
 - ⑤ 湘南食育ラボ 講演会 (2015 年度 2 回) 「錆びない体づくり」等
 - ⑥ スーパー食育スクール (SSS) に小中連携で応募 (2015)、認定されず。
- 6) 幼稚園と小学校、小学校と中学校、高校の幼稚園実習等連携の発展
- 7) 全学的な委員会の新設
 - ① 教育振興基金運営委員会 (学園長主催) 「基金」の運用
幼小中高担当者と同窓会・後援会・PTA で構成
○ワールドランキングトップ大学視察 (2015) ○台湾や ISAC・SGH 指定校視察等視察 (2015)
○米国オーチャードスクールの視察 (2015)
 - ② カフェテリア委員会 全学的な食育の推進
幼小中高担当者とラボ・PTA・後援会代表も委員に。
 - ③ 全学教研実行委員会
幼小中高の実行委員 (6 名) 第 5 回 (2015 夏) には生徒有志が初参加

2. 幼小中高の教育改革 (2010～2015)

(1) 幼稚園の改革

- 1) 募集危機の打開、募集定員の確保
- 2) たんぼば広場 (未就園児) 開始
- 3) 預り保育開始 (2015～)
- 4) 保育後の運動教室や外国人講師による異文化交流
- 5) 保育 5 日制への移行と先生の隔週土休実現
- 6) 学年カフェテリア弁当・ランチ開始

高校生との 交流を通して



年中組学年主任 中川貴義

毎年、春と秋の二回、高校一年生の生徒が家庭科実習で幼稚園にやってきます。

高校生のねらいの中では、実際に子ども達と関わることで自分の成長が親に支えられていることや、命の大切さを感じることがつものです。

この家庭科実習から幼稚園の子ども達は普段、関わることの少ないお兄さん、お姉さんと一緒に過ごすことで多くのことを感じ、多くのことを学んでいます。

今年も年中児の担任として子どもたちが高校生と関わる様子を間近で見ることができました。緊張して自分からなかなか話しかけられない子、逆にとても楽しみにしている子、自然とお兄さんの膝の上に座る子どもなど今回も様々な子ども達の姿がありました。春と秋の二回の実習で、互いに親しみを持って、関われるようになってきました。

年少児との関わりの中で

初めて高校生と過ごす年少児の子ども達。高校生と関わるのが初めてなので不安や緊張を抱いて先生から離れられない子や涙ぐむ子も何人かいます。高校生も初めての実習なので、少し緊張した様子が見られます。そこで先生が中心になり相手の緊張をほぐすために、子どもたちがいつも歌っている歌を聞かせたり、手遊びを一緒にしたりすることで少しずつ心の距離も近づいていきます。

二回目の秋になると、年少の子ども達も前回の経験があるのに関わりもスムーズになります。



年中児との関わりの中で

年中児になると年少児の時と比べて高校生が来ても戸惑う姿も減り、逆に楽しみにする姿が多く見られるようになります。

まずは、名前を教え合ったり、一緒にスキップをとったりながら関わっていかれる時間を作っていきます。すると「この絵本を読んで。」と自ら膝の上に座り読んでもらっている人もいます。また「カプトムシを作って！」と粘土で作って欲しいものを次々とリクエストしている人もいました。



年長児との関わりの中で

年長児になると、高校生と一緒に過ごして楽しかったことなど、これまでの経験を土台に、家庭科実習の日を楽しみに待つようになります。今まで以上に自ら積極的に関わろうとする姿もたくさん見られます。春の実習で関わった高校生の名前や顔を覚えていた子どもも多く、バザーや吹奏楽部のコンサートなど学園内の再会を喜ぶ姿もありました。また、高校生も園児の名前を憶えていてくれて、偶然通園途中で出会い、「おはよう！○○ちゃん！」と名前を呼んで



もろい、とても喜んでいました。様々な関わりの中で子ども達と高校生は心かよいあえる関係もできてきました。

高校生の姿から

高校生の姿を見て感じる点があります。それは湘南学園高等学校の生徒たちの素晴らしいです。

高校生にとって関わることのない幼稚園児。初めて幼い子と関わる生徒もたくさんいることでしょう。その中でも自分達ができる関わりを精一杯、考え行動しています。



まず一つ目は、子ども達の視線に合わせていること。大人と変わらない背丈の高校生と園児の背丈の差はかなりあります。

しかし、高校生は子ども達と話す時は腰をかがめて、同じ目線に合わせて話してくれるのです。目線が合うことで子ども達も話しやすくなり、表情を見ながらコミュニケーションをとることができます。



二つ目は子ども達の話をしっかり聞いてくれます。子ども達は大好きなお兄さん、お姉さんに話したいことがたくさんあります。「のぼり棒、登れるんだよ!」「これ、僕が作ったんだよ!」「逆上がりを見て!」など子ども達からたくさん思いが出てきます。その時、高校生たちは「うん、そっなのーやっ

てみて!」と笑顔で話を聞き、うなずいて見てくれるのです。中には、恥ずかしさもあり、なかなか話しかけられない子もいます。そんな時は高校生から「何して遊ぶのが好き?」「何色が好き?」など言葉を掛けてくれます。子ども達を丁寧に受け止めてくれる生徒の姿勢は本当に素晴らしいものです。



三つ目は子ども達を受け止める、「待ってくれる」ことです。秋の実習では、ハンカチにビ―玉やどんぐりなど色々な素材を包み、タコ糸で縛っていく「染め物」の準備を行います。

た。保育者からは「高校生がやってあげるのではなく、子どもたちが自分でできるうちに手助けをしてあげてほしい。」と伝えてから行っていきます。縛る、結ぶという経験が初めての人も多いので結ぶ作業を教えてもらい、一緒に行いました。苦戦する姿があり、そんな時「やってあげるね!」と言ってやってしまえば簡単ですが、高校生たちは出来るだけ子どもたちが自分でできるように見守っていました。



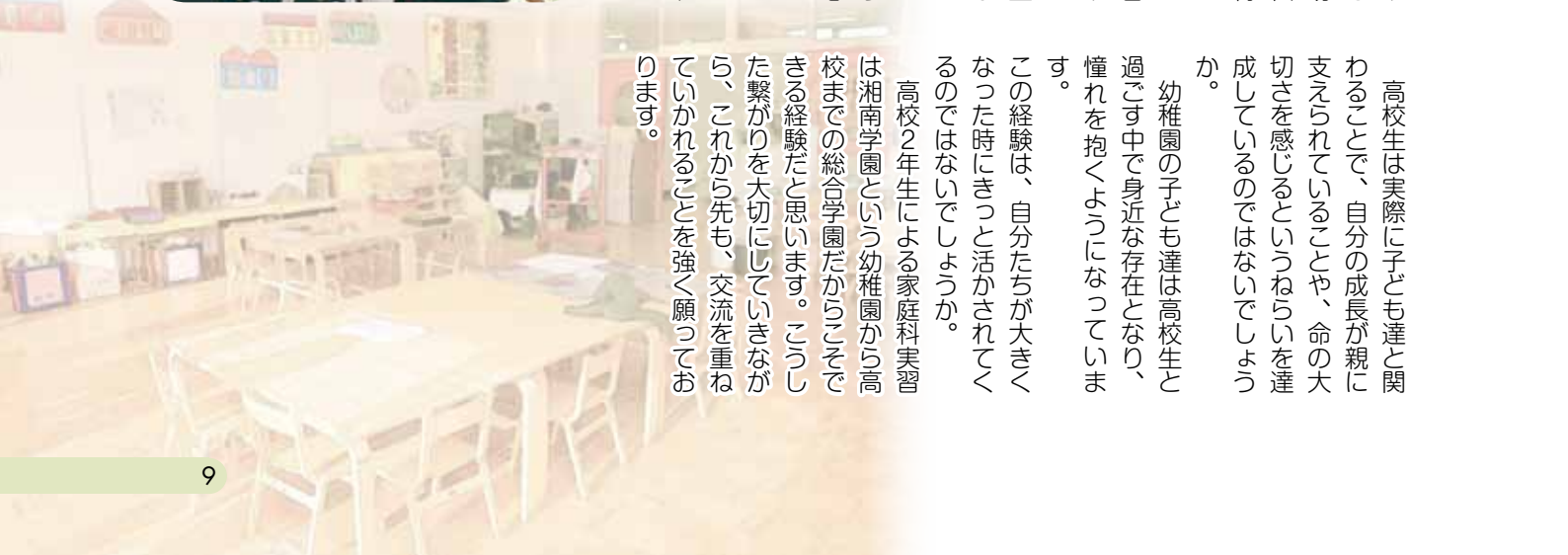
「待つ」ということは簡単そうに思いますが、そこには忍耐も必要です。子ども達が持っている力を信じて、じつくりと待てる高校生の姿に優しさや、思いやりの心がひしひしと伝わってきました。

高校生は実際に子ども達と関わることで、自分の成長が親に支えられていることや、命の大切さを感じるといったねらいを達成しているのではないのでしょうか。

幼稚園の子ども達は高校生と過ごす中で身近な存在となり、憧れを抱くようになっていきます。

この経験は、自分たちが大きくなった時にきっと活かされてくるのではないのでしょうか。

高校2年生による家庭科実習は湘南学園という幼稚園から高校までの総合学園だからこそできる経験だと思います。こうした繋がりを大切にしていきながら、これから先も、交流を重ねていけることを強く願っています。



「湘南学園小学校2016」にむけて

小学校長 榎本勝己

2015年度に湘南学園小学校として湘南学園高等学校を卒業される児童・生徒の皆さんご卒業おめでとうございます。皆さんに心からの祝福と励ましの言葉を送ります。皆さんがそれぞれの進路において、意味ある素晴らしい一年間を過ごされますように心から期待をしています。また卒業生の保護者の皆様にも、お子さまのご卒業をお祝い申し上げます。

②「小学校グローバル教育2016」の本格始動

湘南学園全体のグローバル教育指針を基に、「小学校グローバル教育2016」がスタートします。異文化理解・外国語活動として教科「英語」に向けた教育課程全体の検討のなかで、その核にネイティブ教員のジニー先生をお招きし、2020年小学校英語必修化を視野に、湘南学園らしいグローバル教育としての英語教育の在り方を内容と方法において、編成していく体制を整えていきます。HAY A M A インターナショナルスクールと小学校の「サマコーラボプログラム」の内容も一層充実させ開催予定です。また初等教育における異文化理解の環境も整え、双方向の国際交流の具体化を急ぎます。

湘南学園全体のグローバル教育指針を基に、「小学校グローバル教育2016」がスタートします。異文化理解・外国語活動として教科「英語」に向けた教育課程全体の検討のなかで、その核にネイティブ教員のジニー先生をお招きし、2020年小学校英語必修化を視野に、湘南学園らしいグローバル教育としての英語教育の在り方を内容と方法において、編成していく体制を整えていきます。HAY A M A インターナショナルスクールと小学校の「サマコーラボプログラム」の内容も一層充実させ開催予定です。また初等教育における異文化理解の環境も整え、双方向の国際交流の具体化を急ぎます。

力に磨きをかけ、時代を想像し、創造する力を培います。そのため、湘南学園小学校教員の豊かな問題意識に裏打ちされた教育・研究力の一層の向上をめざします。今までも増し、校内外研修や授業研究会に旺盛に取り組んでいきます。こうしたなかで、初等教育課程編成の理論と方法をしっかりと見極め、着実に進めていきます。

④連携・接続・一貫性をもつ た総合学園の未来を共に

幼稚園、小学校、中学校、高等学校の連携・接続・一貫性を十全に生かした湘南学園の未来を共に大きく示していくことの大事さを強く感じています。総合学園としてのトータルな教育・研究環境と私たちの主張をご理解、共感いただき、共にその未来を築いていきたいと願っています。

⑤「湘南学園小学校アフタースクール2016」の魅力

次年度3年目に入る「湘南学園小学校アフタースクール」

は、ここ湘南・鶴沼のロケーションと湘南学園の豊かなリソースを十全に生かしたメニューを年毎にグレードアップさせてきました。近年アフタースクールを運営する私立小学校が増えてきましたが、そうした学校が目標にする1つに湘南学園小学校のアフタースクールがあるといっても良いでしょう。今後とも保護者の皆様のご理解とご支援をいただき、同窓会をはじめ関係者のご協力をいただきながらより一層の魅力づくりに努めていきます。

⑥PTA、同窓会、後援会、地域の皆様のご協力を力に

今後小学校が進めていく、様々な施策とその取り組みを成功させていくには、何よりも湘南学園の関係者による連携と協力が不可欠です。目指す湘南学園小学校の学校づくり、教育づくりのベースには「チーム湘南学園」が存在し、支えていただいていることを改めて確認しました。

⑦「まなぶって楽しい、わかるってうれしい」を合言葉に

湘南学園小学校のアドミッシ

ョンポリシーともいえる右の合言葉には、学校（スコール）の本質が示されています。学校は新たな発見の場であり、その発見から考えるステージでもあります。子どもたちが遭遇する一つひとつの「きっかけ」が、自らの新たな発見につながり、理解を深め、その底にみえる流れをつかんで、「そうか」となるような場にしていきたいものです。

⑧安心・安全の防災拠点・湘南学園小学校を

湘南学園小学校は何よりも安心・安全の場ではなくてはならない、という基本の上に、「いつくるかわからない、その日のために何度でも」と地域の皆様と共に防災訓練に努めます。日頃より、地域の一人としての役割を担い、愛される湘南学園小学校になるように、全教職員が自覚を高め、日頃からの対応をすすめます。

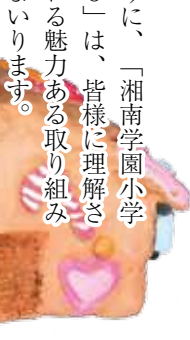
「湘南学園小学校2015」の成果と課題を確認し、「湘南学園小学校2016」の策定に入りました。ではその取り組みはどのような魅力溢れたものになるのでしょうか。主な点をご紹介します。

①隔週5日制を「豊かな学力」を支えるベースに

昨年度からスタートした小学校隔週5日制が、人間性豊かな理想教育をめざす「改革基本大綱」を実践するベースとなり、児童・保護者・教職員・地域の皆様が協力と共同をもって創造してまいります。

③20年後を視野に入れた初等教育課程の再編成へ

AI（人工知能）にとつて代わられる時代の到来が指摘される所です。私たちは人間の五感をいかした人としての総合



戦争体験を聞く

平和への願いを語り継ぐために

小学校六年生担当

南田 美加
笠井多香子
鈴木 智洋

【平和について考える】

昨年は、戦後七十年の節目にあり、新聞やテレビのニュース等、多くのメディアで「戦争や平和」をテーマにした報道がなされました。六年生の子供達からも「広島に行ってきたよ」「親戚に話を聞いたんだけど……」と関心を持つ声が寄せられるようになり、ちょうど社会科の授業（歴史）でふれることもあって、学年で平和学習に力を入れることにしました。

今年度は、地域の方々の協力を得、戦争体験を直接聞く機会を作ることができました。

【女学生が見た戦争】

芝さんは、戦時中からこの湘南・鶴沼地域にお住まいで、乃木高等女学校（今の湘南白百合高等学校）時代に、この地で戦争を体験された方です。

が空襲で燃えているのが見えたこと等、戦時中に体験したことや考えていたことを、優しい言葉でわかりやすく話して下さいました。

中でも、青春真っ盛りの年頃にもかかわらず、自分はどう死ぬかという事はかなり考えていたというお話は衝撃的でした。終戦で人権や平和、憲法を知り、自分の命は自分のものなのだとして本当に嬉しかった。子供たちも、同世代の目から見たお話に、戦争の現実をより強く感じることができたようでした。



【タケノコはんのお話】

故・大島渚氏が子供時代の思い出を描いた『タケノコはん』のお話。戦時中の日常がやさしい言葉で綴られています。反戦を直接訴えるようなメッセージはありませんが、子供達ひとり一人に「あなたは どう思う？」と問いかけてくれる絵本です。実はこの絵本、ご子息の大島武氏へ「お家の人に作文を書いてきてもらいなさい」と、学園小学校在籍時代に宿題が出され、そのときの作文がもととなっているそうです。

11月には武氏をお招きし、絵本に関わるお話のほか、コミュニケーションとは何かについて講演を行っていただきました。



【戦時中の湘南・横浜地域】

12月には、鶴沼郷土資料展示室にお勤めの内藤喜嗣さんから、この平和学習の締めくくりともなる特別授業をして頂きたい。

した。

戦中・戦後の湘南学園や鶴沼地区の景色、空襲、原爆、人々の姿：授業と重なるお話。写真資料を目の前に、時折「えっ」「あああ」と声ももれる場面もあったり、一言ももらさぬようにと、真剣にメモをとる姿もありました。

《子供のレポートより》

・先生と読んだ新聞にあった「いまある日々が平和」ということを改めて感じた。目をそむけてはいけない気持ちの方が勝った。戦争がなければ大切な人を失わずにすんだのに、みんな自分の人生をくるわされた被害者だと感じた。

・爆弾を落とすB29に搭乗している人の表情が何の悪びれた表情もなく落としていったと聞いて、戦争は罪悪感もなく人までも変えてしまうものだ。

・飛行機が戦争のために悪い方向に発達していったことはよくないことだと思う。戦争をやっている、日本に何の利益があったのか。

・七十年前、戦争でひどい目にあい、今を平和にしようとして努力して日本を平和にしてくれた方たちに感謝をしなければならぬと思った。そして当たり前

ない「平和」を大事にこれからも「平和」が続くようにしなさいといけないうと思う。

【戦争体験を聞いて】

戦争を経験された方々がご高齢となり、お話を伺う機会も少なくなってきたと思います。戦争の記憶や平和への願いを薄めてはいけない……私たちが大人は、いかに次の世代へ伝えていくか考えなくてはならないような気がしています。

そんな中、今回の経験を通して、子供達の方から「この話（戦争体験）を私達が語り継いでいかないといけない」と頼もしい声があがるようになり、嬉しく思っています。

平和とは何か、平和を実現するために自分たちが出来ることは何か。これからも子供達と一緒に考えていきます。



ユネスコスクールと ESDのキャリアラム

中学校長 山田明彦

ESDを軸とする教育改革

日本の学校教育は、転換期に直面しています。大学入試及び高等・中等教育の改革、高大接続の充実が提唱され、「アクティブラーニング」の普及が奨励されています。激動する社会を生きる次世代の生徒達に対してどのような学力や人間力を育成していくのか。特に私立学校は建学の精神を踏まえてどんな志を掲げて教育全体の質を高めるのが問われています。

本校は、中高6年間の総合学習の実績を生かして、創立80周年を機にユネスコスクールに加盟し、ESDのキャリアラムを構築する方向へ踏み出しました。昨年春にはスーパーグローバルハイスクールのアソシエイト校にも指定されました。(グローバル社会の進歩に貢献できる明朗で実力ある人間の育成)という課題を掲げ、ユネスコスクールとして独自の「ESD」を構築することを目指しています。グローバル教育もESDの発展の一側面であると考え

ています。「ESD」を説明すれば、「持

続可能な社会の担い手を育むために、地球規模の諸課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分で考え行動を起こす力を身につける教育」と提示できます。保護者・卒業生・地域の参画に恵まれる条件を生かして、学園生の認識や行動力を育みたいものです。そして社会に貢献する自分のヴィジョンを持ち、周りの人達と協働できる「チェンジメーカー」を輩出する総合学園にしていきたいと願っています。

ESDカレンダーの編成

今年度「ESDキャリアラム構想委員会」を発足させ、全教科の教員で検討を開始しました。各教科の単元進行を確認し合い、生徒の現実を知り、「教科横断型の連携授業」や「研修旅行とつながるテーマ特設授業」の実践例を増やして共有を図るようにしました。「ESD等の時間」を2017年度の中3学年から設ける予定です。生徒が「学ぶ意味」や「学ぶ楽しみ」をより自覚して能動的な学習へ向かえるように、従来の分断型から連携型への転換を図ります。新たな定番内容を広

げて6年間の「ESDカレンダー」の編成を目指し、特に中3・高1・高2で総合と教科の連携を追究します。「自ら学ぶ意欲にあふれ、様々なツールを活用して正解のない問いにも粘り強く探究する知性」を育てていきたいと願っています。

総合学習・研修旅行の学び

各学年の総合学習では事前学習を重視し、課題設定力や調査力、企画力を育みます。校外訪問の準備と面会、様々な情報を総合する発表、異なる立場や利害への認識など学年進行のレベルアップを図り、問題意識や自主性の深まりに期待します。特に研修旅行は体験学習や交流・聴き取りを通じて人びとの仕事や暮らしを知り、様々な生き方やつながりから学び、持続可能な社会のあり方や人生について深く考察できる場面です。

一例で、昨年の高2研修旅行の東北コースでは、大震災被災地の訪問交流体験から旅行後も自主的な活動を開始しました。班の有志が教員向けの報告会を行い、学校へ防災計画の提言を届けてくれ、下級生に次年度のコース存続も願って報告や提起を図っています。自治体やNPOの募集に応えて地方創生のプランニングへ参加する在校生の実例もあります。生徒達の中にも、持続可能な社会の

あり方への関心が広がっているのです。「18歳選挙権」を受けて「自分達も世の中に関わり発言、行動していこう」という意欲を育てることもつながります。

ユネスコスクールの普及

全国大会の主催には文部科学省も入る時代です。幼小中高大の加盟校教員や研究者や行政関係者が参集し、全国の加盟校は増加して約千校になりました。首都圏でも多摩市や大田区・世田谷区など地域連携が進展し、ユネスコスクールとして高校廃校を阻止した「地方創生」の例もあります。

今後は海外のユネスコスクールとの交流や提携も期待されています。教育課程の編成で公立校より裁量権に恵まれ、PTA・同窓会・後援会・食育NPOのご尽力に恵まれる学園の可能性を再認識させられます。ESDの視点から総合学習や教育課程編成の先進的モデル校を目指すことは建学の精神につながる使命ではないかと考えられます。

ESDの浸透をめざして

教育のあらゆる場面でESDの視点を浸透させる課題が遅れていると反省しています。「EDは新規の開始でなくて既存の教育の新たな方向付けである」と指摘されます。「次世代の若者にESDは必要である」との共通理解を深

め、教科と総合学習の連携はもとより学校行事や部活動の指導、日常的な生活指導やHR指導、キャリア教育でもESDの視点で検証し、つながりの見通しを持つことが求められます。大学入試の改革が注目を集めますが、中長期的にはESDの進展はこうした動向とも重なり合うことが推測されます。全ての教育指導の領域でESDの視点から振り返りを行い、相互の指導が結びついて生徒達の成長に寄与できるように、ESDの文化を学校に浸透させていく努力を広げていきたいと考えています。



大学入試・高大接続をめぐる動向と本校の学習進学指導の強化

学習進学指導主任 木下貴志

若者たちに関わる時代の変化

若者たちの未来は、これからどうなっていくのでしょうか？

かつては、「一生懸命に勉強してレベルの高い大学に入ると、その後の人生がある程度保障されるかもしれない」と考える人は少なくありませんでした。確かに努力した若者が、その後大人になって社会で活躍するというのは、ある意味では当然です。

しかし、時代は少しずつ変わり始めています。「良い大学を卒業しただけでは、その後の人生は約束されない」と考える人が増えてきたのです。

「今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い」、「今の子供たちの65%は、大学卒業後今は存在していない職業に就く」など、各専門家によつて未来に対する様々な予測が語られています。

教育の改革

そこで多くの人々が、どうしたら良いかを考え、次のような目標を掲げることにしたのです。

「先を見通すことの難しい時代において、生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り拓き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てよう。」

「我が国に永らく続いた学力観を転換し、成熟社会にふさわしい真の学力を育成、評価できるよう、抜本的な意識改革・制度改革を早急に図ろう。」

つまり教育に関する「改革」が始まることになったわけです。

大学と高校までの教育の接続

まず大学です。大学でどのような教育をするべきかを考えなければなりません。そして目標に掲げた力を学生諸君に身につけてもらうための「学位授与の方針(ディプロマポリシー)」を考えるわけです。

そのために大学在学中の教育内容を考えなければなりません。「教育課程編成の方針(カリキュラムポリシー)」を考えます。

次は、大学が行う教育に適した学生を選抜する方針(アドミッションポリシー)を決めます。

これに伴って高校は、各大学が求める学生像を理解し、それに沿った能力が身につくように教育をしなければなりません。

大学教育と高校までの教育がどのように接続するのか、そしてそれに伴う大学入試がどのように変わるのか……これが今直面しているテーマな

のです。

大学が求める力と入試

大学が求める力をまとめると以下の3つになります。

(1) 基礎基盤となる「知識・技能」の確実な習得。

(2) テーマについて個人、そしてグループで考え(思考力)、その考えをまとめる(判断力)、発表やレポートにまとめる(表現力)外化などの能力。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性協働性)や力。

アクティブラーニングの必要性

こうした力を高校までに身につけるにはどうしたらよいか。それには「話を聞くだけ……」という学び方ではなく、能動的で主体的に学ぶこと(アクティブラーニング)が必要になります。

これまで中高では、外部で行われているさまざまな研究会や研修会に参加してきました。昨年は、実際に高校1年生有志諸君の協力を得て研究授業を実施し、何が「アクティブ」なのかについて考えてきました。

グループワークをしたり、他の人と意見を交換したり、教えあったり、先

生ではなく生徒が説明したり……ということが学習の大きな助けになります。

本校ではこうしたテーマについてすでに動き始めています。各授業で「アクティブ」を目指した取り組みが始まっています。

2020年までの間に、大学入試センター試験を中心に様々な入試改革が行われていきます。こうした変化に敏感に対応しながら、中高では教育の充実を図っていきたくと考えています。

一方、中学校では英検全員受験やイングリッシュキャンプ実施、高校1・2年生ではCITEC for students等の外部試験を導入するなど英語教育の充実にも力を入れています。

様々な取り組みが行われ、実ることが理想なのですが、みな簡単にいくわけではありません。

さて、この「実り」を支えるものとは何なのでしょう？ 恐らくそれは「希望」なのだと思います。人は不安のまっただ中にいるときには力が湧いてこないのに、何かしらの解決策や具体案が思い浮かぶと、途端にやる気が出てきたりします。

だから二人で悩んでいて、なかなか良い考えが出てこないときは、人に相談するのが得策です。人に自分の悩みを打ち明けるだけで、頭の中が整理され、悩みが消えてしまうなどとい

くことはよくあることです。人の意見を聞いてみることは更に良いことかも知れません。

さて、そのようなときに生徒諸君に寄り添うのが教師の役目とも言えます。我々は、生徒諸君との日常の面談をとっても大切にしています。生徒の心や人生を見つめる大切な機会だと考えているからです。

中高には進路相談室があります。学年や学級を越えて学習や進路のことなどを相談することができるところです。私たちが学習進学指導委員のメンバーが生徒諸君の来室を待っています。



主体的な学びの場とは？

能力を伸ばすための学習の場は、学校だけではなくありません。実は「家庭学習」がとても重要なのです。なぜか？ それは家庭学習がまさに「主体的な学びの場」だからです。帰宅してから、自分の部屋などで勉強を開始する時刻が決まっているような生徒は確実に学力が伸びます。

真の学力や主体性を身につけるためには、実は生徒諸君それぞれの中に

湘南学園中学高等学校における食育

「カフェテリア」との連携 中高 家庭科 坂元久美子

昨年度の学園日よりでは、湘南

学園における食育の取り組みを
ご紹介ご報告いたしました。他
校との比較を正直に申し上げれ
ば、学校教育における実際の習熟
度にはかなりバラつきがあるよう
に見受けられます。

オープン3年目を迎える本学
園のカフェテリアは、食育実践に欠
かせない学びの場としての存在感
を徐々に高めてきました。ご存知
のように、保護者の参画を採用す
る運営方針は全国的に見てもユニ
ークな取り組みです。この得がた
い環境を活かして、ご家族の思い
をメニューに反映し、各学年におけ
る家庭科の授業とも連動させ、カ
フェテリアの利用が生徒たちの心
身の健康と成長を支える軸とな
る、そのような理想像を思い描き
ながら進めてきております。

以下、今年度の取り組みにつき
まして、中学校分野にしばってご
紹介いたします。

①中学1年「湘南学園独自のカ
フェテリアの良さを知り、活用
する

◎「カフェテリアニュース」を通し

て関心を深める

カフェテリアの情報がコンパクト
にまとめられています。ご家庭の
お弁当に負けないぐらいの愛情が
こめられた温かい手づくりメニュー
を、ごく気軽に食べられる環境が
身近にあることを知るきっかけに
なっています。

◎クラスランチ

カリキュラム上、中学1年生で
は家庭科授業が設定されており
ませんが、今年度から毎月1回ク
ラス単位で食事する機会を設け
たのが「クラスランチ」です。

仲間たちと一緒にご飯をするこ
とにより、嫌いだっただメニューや食
材をいつの間にか食べられるよう
になったという事例が予想外に多
く、仲間同士や先生たちとのコミ
ニケーションが深まった等の思わぬ
効用もあり、取り組み1年目とし
ては上々の成果を挙げることがで
きました。

◎食育フェスティバル

中1クラスランチの年度最終回
では、学年会とカフェテリア委員
会がコラボした「食育フェスティバ
ル」が実施されます。保護者の皆
様をお招きしアクティビティ等を



通して楽しく学習できる新企画
です。このような保護者の皆様が
カフェテリアを利用できる機会は
次年度以降も設けたいと考えて
おります。

②中学2年「食事の場+学習の
場としてのカフェテリア

食育の基本的な考え方を習得
することが目的です。今年度は通
常授業でもカフェテリアを利用し
てまいりました。

栄養士の方によるレクチャー付
の食事は、形をかえた実習授業
のようでもあり、好評でした。た
だ「空腹を満たすための食事」と、
「根拠と意図を理解した上で食
べる食事」には雲泥の差がありま
すので、この違いを理解するのにふ
さわしい企画だったと考えます。

また「旬の食材を味わう」学習
では、カフェテリアで秋刀魚のさば
き方/筒抜き技術習得をしな
がら、魚の栄養素とその効果、魚
と大根おろしとの相性について考
え、旬の食材の基本である新米を
食する機会も設けています。

献立を考える授業では、和食の
王道ともいえる献立「汁三菜」の
優れた点を学びました。

③中学3年「自分の意見や学習
の成果をカフェテリアに反映

たとえば、学習テーマ「郷土料
理を学ぶ」においては、身近な郷土
料理を知り、郷土料理の背景とな
っている歴史や食材について学ぶ
と共に、実際にメニューとして採用
することで理解を深めました。

主な採用メニューは「へらへら団
子」「けんちん汁」「芋煮汁」など
です。中でも「へらへら団子」は行
列ができるほどの大人気となり
ました。その後も、自分で調べた
郷土料理名と特徴を模造紙にど
んどん書き足していく「郷土料理
の樹」掲示などの学習が展開され
ています。

最後に、高校2年での取り組み
で見られたエピソードを紹介いた
します。

カフェテリアのスタッフさんにお
願いして作っていただいた、魚の出
し汁を使用したカレーを特別メニ
ューとして食した際のことです。
味について生徒の意見が割れまし
た。これはあらかじめ予想してい
たことなのですが、新しい味でおい
しいと感じる生徒もいれば、食
べなれない味嫌いだ、なぜカレー
に魚なのかと思った生徒もいたの
です。

カレーライスとは、様々な和風レ
シピが存在する国民食とも言え

る存在です。各地に「さばカレー」
「まぐろカレー」など魚仕立ての
カレーも各種存在し、野菜など苦
手な食材を克服するために活用
される万能食でもあります。

自由な発言は大いに歓迎すべ
きですが、一方でただ好き嫌いの感
想を述べるだけではあまり意味
がありません。このような意見の
ぶつかりを経て、自分なりの工夫
や対案を示すなどの展開力こそ
大事だということを学ぶ、非常に
良い機会になりました。

湘南学園の食育は、食に関する
多くの情報を正しく読み取って
取捨選択する力、いわゆるメディ
アリテラシーの力を養いつつ、学ん
だことを自らの実生活に落とし
込み、応用できるようにすること
を大きな目標としています。食事
というものが、生徒たちの卒業後
の進学/就職/健康/人生設計
をも左右する可能性を考えた場
合、十分な労力をかける価値が
あるテーマ、それが食育だと思っ
ています。

私たちはこれからも、生徒た
ちの「食の自立と自律」を目指し
て、引き続き多方面からのご意見
ご指摘をいただきながら取り組
んでまいります。宜しくお願ひ申
し上げます。



《学校法人から》

【理事会報告】

前号掲載以降、次の理事会を開催いたしましたので、ご報告いたします。

第6回定例理事会	9月19日
第4回臨時理事会	9月26日
第5回臨時理事会	9月30日
第7回定例理事会	10月24日
第3回常任理事会	11月14日
第8回定例理事会	11月28日
第9回定例理事会	12月19日
第7回臨時理事会	1月15日

【主要な議題・報告等】

- ・ 学園長選に係わる規程類について
- ① 学園長選挙管理委員会規程について
- ② 学園長候補者推薦規程について
- ③ 学園長選任規程について
- ・ 次期学園長選任にかかる公告について
- ・ ヤングアメリカンズ開催へ向けての経過報告
- ・ 小学校西校舎トイレ改修工事業者の決定について
- ・ 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用

等に関する法律

- ・ カフェテリア業務委託に関する覚書に基づく支払資金の支払について
- ・ 平成27年度地域別最低賃金額改定に伴う賃金の支払について
- ・ 学園長選挙当日の進行要領(案)について
- ・ 次期学園長の選任について
- ・ 平成28年度予算編成方針(案)について
- ・ 2015年度冬期賞与の支給について
- ・ 次期学園長選任経過の報告について
- ・ 2015年度PTA事業計画災害手帳作成、配布について
- ・ 中学入試印刷費の支出について
- ・ 監事候補者の選出について
- ・ 小学校募集定員の改定について
- ・ 2016年度1年単位の変形労働時間制に係る中高研修日の設定について
- ・ 2015(平成27)年度補正予算(案)の対象項目について

【事務局からのご連絡】

お引越し等の事由により、ご登録頂いているご住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、ご住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局にご準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

